

[Material]

## **A Comparative Study on the Role of Advanced Practice Registered Nurses in California and Japan**

Akiko Matsumoto\*

\* Aino University

### **Abstract**

In 2019, Aino University master course started a 10- day training program at the University of California, Los Angeles (UCLA) as an advanced nursing theory exercise. The contents of the training included visits to the UCLA campus and related hospitals, lectures on medical and nursing systems in the United States and California State by nurses working in the field and UCLA professors. In the role of nursing in the United States and other countries, the proportion of medical treatment and diagnostic participation are increasing. This is thought to be due to the prevention of illness in patients and the recovery of health through the involvement of highly specialized nurses with advanced knowledge and skills. Because I saw potential in improving the quality of medical services by expanding the role of nurses in Japan more advanced and professional, I reviewed and considered the role of advanced practice registered nurses (APRN) learned in the United States. As a result, nurses' expertise in the United States was based not only on social needs, but also on established systems and advanced education and practice appropriate to their responsibilities. In Japan, it is desirable to develop a system that can demonstrate nursing expertise in a medical system that is changing and becoming more complex every day.

**Key Words :** APRN, CNS, NP, overseas study

## 日本と米国カリフォルニア州における 高度実践看護師の役割についての比較考察

松 本 晃 子\*

### 【要 旨】

2019年度より藍野大学大学院では先進看護論演習として、カリフォルニア大学ロサンゼルス校にて10日間の研修プログラムが開始された。研修内容は、UCLAのキャンパスと関連病院の視察、現地で働く看護師の方やUCLAの教授等によるアメリカの医療、看護体制についての講義等である。アメリカをはじめ諸外国での看護の役割において、医療的処置や診断など治療への参画の割合は増加傾向にあり、日本においても看護師の役割をより高度かつ専門的に拡大していくことに医療サービスの質の向上の可能性を感じたため、アメリカで学んだ高度実践看護師の役割について考察を行った。結果、アメリカにおける看護師の専門性は、社会的なニーズだけではなく、確立された制度と、その責任に相応しい高度な教育と実践に基づいているものであった。日本においても、日々変化し複雑化する医療体制の中で、看護の専門性が発揮できるような体制の整備が望まれる。

キーワード：高度実践看護師，専門看護師，診療看護師，海外研修

### 1. は じ め に

2019年度より藍野大学大学院では先進看護論演習として、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（以下UCLAとする。）にて10日間の研修プログラムが開始された。研修内容としては、UCLAのキャンパスと関連病院の視察、現地で働く看護師の方やUCLAの教授等によるアメリカ全体やカリフォルニア州での医療、看護体制についての講義などである。私は、このプログラムに大学院生として参加し、グローバルな視野を持って看護の展望を考えることの重要性を感じた。

アメリカをはじめとした諸外国での看護の役割において、医療的処置や診断など治療への参画の割合は増

加傾向にある。それは、高度な知識と技術を持った専門性のある看護師の関わりにより患者の疾病の予防、また健康回復が促進されているからであると考えられる。今日の日本の医療体制は少子高齢化に伴う地域医療構想や、医療制度改革など新たな時代への変革期にあたり、患者や家族など看護の対象も非常に複雑化している。医師の不足や医療の高度化も伴い、現場は煩雑な業務に日々追われているが、それでも私たち医療職者は患者にとって質の良い医療サービスを追求し続けていかなければならない。このような状況下において、日本における看護師の役割をより高度かつ専門的に拡大していくことに、医療サービスの質の向上の可能性を感じたため、アメリカで学んだ高度実践看護師の役割について振り返り、考察していきたい。

\* 藍野大学

## 2. Advanced Practice Registered Nurses (APRN) とは

アメリカにおける APRN とは、日本における高度実践看護師 Advanced Practice Nurse (APN) と訳されるが、内容は異なっている。アメリカにおける APRN の主な種類としては、Nurse Practitioner (NP), Certified Nurse Midwife (CNM), Nurse Anesthetist (NA), Clinical Nurse Specialist (CNS), Psychiatric/Mental Health Nurse (PMH) の 5 種がある。UCLA の Maria Elena Ruiz 博士によると、APRN の役割は、患者にヘルスケアの提供と調整をすること、医師と家族の仲介、専門的な技術や知識を伴った決断力と経験を備えた看護師であることなど日本とはほぼ同様の内容と共に、患者を診断することや専門職への紹介、薬の処方などの権限がある。これに対し日本では、日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分会<sup>1)</sup>によると、高度実践看護師とは「個人、家族、及び集団に対して、ケアとケアの融合による高度な看護学の知識/技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践することができる看護師」と定義されており、主にクリニカルナーススペシャリスト Clinical Nurse Specialist (CNS) と、ナースプラクティショナー Nurse Practitioner (NP) の 2 つのタイプがあるとしている。また、高度実践看護師の教育は大学院での教育が相当であるとしていることから、看護協会や大学等での研修制度で取得される認定看護師はこれには含まれていない。高度実践看護師のようなケアに踏み込んだ専門的能力を認定するには看護系の学会、関連する医学系学会等との協議が必要であり、現在のような看護職能団体内部に留まる認定の仕組みでは対応できないことから、新たな認定制度の確立が必要となっている。

以下、日本とアメリカのカリフォルニア州における APRN の役割の違いについて各種別に考察していく。

### 1) Clinical Nurse Specialist (CNS)

日本における専門看護師のことであるが、アメリカの CNS の業務内容は日本とは異なっている。アメリカにおいて、National Association of Clinical Nurse Specialists (NACNS)<sup>2)</sup> は CNS について、修士または博士課程以上の教育を受けており、Registered Nurse (RN) 以上の高度な実践（専門分野に加えて生理学や薬学、フィジカルアセスメントなど）ができるよう訓練された看護師であると定義している。アメリカにお

ける CNS は 60 年以上の歴史があり、現在 7 万人以上がいるが、州の法律によって認可されているため、州ごとで実践内容は異なっている。さらに NACNS は、CNS はヘルスケアのリーダーになる存在である<sup>2)</sup>としており、UCLA の Catherine M. Gabster 博士によると、CNS は他の APRN よりも看護の専門性が高く、看護の立場から医師に対してアドバイスも行うとのことであった。また、アメリカでは患者や家族などの個人的な関わりは主に RN が行うため、CNS はシステムや組織に対する関わりが大きく、管理的な要素が強いと考えられる。また、研究などで証明されている理論を臨床に落とし込むことも CNS としての役割であるとのことであるが、それに関しては日本の現場でも同様に求められていることであると感ずる。UCLA で講義をしてくださった Catherine M. Gabster 博士についても CNS であるが、現在は UCLA 病院の周麻酔期ケアユニットの管理業務をされている。麻酔部門は日本のシステムとは異なり、ICU が満床の際に入れない患者のためのリカバリールームや、救急患者や入院患者に対して一般病床よりも複雑な介入を必要とする場合などの重症かつ緊急性のあるユニット、内視鏡的処置を必要とする患者や心臓や肺など臓器移植の準備をする短期入院のユニットを総括した部門のことである。高度な医療技術、知識だけでなく、マネジメント能力も必要とされる部署で、CNS が機能していることが理解できる。

日本における CNS は 1995 年から認可された。専門看護師教育課程を大学院教育で学ぶことが必須であり、2018 年現在で 2279 名が CNS として認定されている。日本看護協会<sup>3)</sup>は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかるとしている。役割としては、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の 6 つを挙げており、アメリカに比べるとヘルスケアシステムへの介入は薄く、より個人に対して実践的であるといえる。また、アメリカと日本のどちらも CNS の資格は 5 年ごとに更新されていくが、日本においては実務実績や研究実績などを基準とした書類審査であるのに対し、アメリカでは American Nurses Credentialing Center (ANCC) による 150 時間以上の継続教育の修了等である。日本はアメリカに比べて実績を重視しているように見えるが、アメリカにおいて CNS は診断や処方などの裁量が幅

広いことから、更新する際に必要なものが異なっているためとも考えられる。

## 2) Nurse Practitioner (NP)

日本においてNPは診療看護師とも訳されているが、アメリカのNPの業務内容や普及率においてもかなり異なる。アメリカにおけるNPは、Acute Care（急性期看護）、Adult Gerontology Health（成人・高齢者看護）、Family Health（家族看護）、Neonatal Health（新生児看護）、Pediatric/Child Health（小児看護）、Psychiatric/Mental Health（精神科看護）、Women's Health（婦人科看護）に分かれており、そこからさらに、Oncology（がん看護）、Palliative Care（緩和ケア）などの多様な専門性に分かれている。また、カリフォルニア州の規定では2008年よりNPになるための条件として、①RNの資格があること、②看護学の修士号または看護学に類した臨床における修士号、看護学で博士号を持っていること、③委員会認定のNPのプログラム受講がされていることと定められている。NPの中で、最も多いのがFamily Nurse Practitioner（FNP）であり、半数以上を占めている。FNPは和訳すると家族看護となるが、子供世代から親世代まで家族全員を看護の対象とすることができるという意味であり、家族というユニットを対象とする日本の家族看護とは意味合いが異なる。UCLAでこれらについて講義をしてくださったMaria Elena Ruiz博士もFNPであり、その役割について診療所のドアから入ってくる全ての患者を診ることができると話されていた。また、FNPの具体的な役割としては①急性、流行性、慢性的な病状の診断、②ヘルスケアチームの一員、もしくは単独的に働く、③ヘルスプロモーションの啓発や疾病予防、④臨床検査やレントゲンなどのオーダーや実施、判断、⑤薬剤の処方であると話されていた。州によってこれらの規定は異なるが、UCLAがあるカリフォルニア州ではこのような役割を担い、クリニックなどの開業医、病院や外来、学校などで働いているとのことであった。

日本におけるNPは、2008年にアメリカを参考にNP教育課程が設置され、2019年4月時点で10校あり、修了者は400名ほどである。この教育課程は大学院修士課程に設置されており、フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学などの科目を設け、対象者の身体状況を的確に把握し、診断や治療を提案するプロセスも学んでいる<sup>4)</sup>。知識や判断力を活かし現場で看護実践を行っているが、現在の法律のもとでは

「看護師」であり、他の看護師と同様「傷病者若しくはよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助」という法の下での業務範囲内で活動をしている。診療の補助行為については、医師の指示（特定行為については「手順書」）に基づいて行うこととされているため、アメリカのように独自の判断で業務を行うことはほとんどないと考えられる。しかし、日本看護協会<sup>5)</sup>は今後、病気を抱えながら生活する人々が急増する中でも、住み慣れた地域で暮らし続けることを支援するため、看護の基盤をもちながら医師の指示を受けずに一定レベルの診断や治療などを行う、米国等のような資格が日本においても必要であると述べている。今日の日本においては地域医療構想に伴い、特に在宅医療分野においてはこのような専門性の高い実践的な役割が求められていると考えられる。そのニーズの幅を考慮すると、いまだNPの普及は追いついておらず、また業務内容における制度の構築においても早急な整備が必要な段階であるといえる。

## 3) Certified Nurse Midwife (CNM)

CNMは日本における助産師のことである。アメリカにおける助産師はほぼCNMであり、修士課程での教育となっている。さらに、CNMは国家資格であるため、全米のどの州でも働くことが可能である。UCLAで講義をしてくださったAnita Bralock博士によるとCNMになるための必要なこととしては、①RNであり学士を所有しておりCNMプログラム（大学院修士課程）を修了すること、②RNとして周産期ケアの経験があること、③薬についての知識があること、④胎児のモニタリング方法を知っていることなどである。また、CNMの職場としては、病院やクリニックをはじめ、患者の家やCNM自身が開業している場合もあり多様性がある。さらに、Anita Bralock博士によると、都会で働いているCNMは病院で医師と共に働く場合が多いが、カリフォルニア州では南部などの田舎の方で医師が不足しているところはCNM自身が開業し分娩等に携わることが多いとのことであり、地域差があることがうかがえた。そのような場合、CNMは医師と契約し、合併症が発生した場合など緊急時に、連携が取れるようにしなければならなかったり、訴訟につながる可能性もあることから過失保険に加入することが必要となる。職務内容としては、家族計画や性病の治療などの婦人科ケア、それに対する薬の処方など妊娠前から、妊娠中の検診、分娩まですべての期間に関わることである。その中でも



日本と大きく異なるのは、アメリカでは病院で出産をする場合、産後異常がなければ2日目、帝王切開でも3日目には退院することである。そのため、出産前から家族を巻き込んだ授乳や沐浴などの指導を行い、地域の保健所やクリニックと連携していかなければならないとのことであった。

日本においても助産師は助産所で管理者として働くことができるが、診察や処方に関しては権限がない。そのため、診療所や病院と連携を取り必要な場合はそちらで行う形をとっている。そのようなこともあってか、地域格差もアメリカほどはなく、助産師に頼り切った分娩の状況はアメリカのように見られていない。また、助産師教育過程に関してはアメリカのように臨床経験は必要なく、大学の教育課程で看護師と同時に資格取得可能な場合もあるため、裁量権は少ないが比較的間口は広いといえる。

#### 4) Nurse Anesthetist (NA)

NAは麻酔看護師と訳されるが、日本ではこの職種は認可されていない。業務内容としては、手術や分娩に関する麻酔管理や疼痛コントロールを麻酔科医の監督下またはクリニックなどでは単独で行うことである。UCLAで講義をしてくださったCharles A Griffis博士によると、NAになるためには①看護学士号を持っておりRNであること、②1年以上のクリティカルケアユニット(ICUなど)の経験があること、③修士号、博士号を有することなどが必要とされている。②に関して、NAはICU看護師から目指す看護師が多くあるとのことである。クリティカルケアユニットの経験には、臓器や機械にフォーカスするような手術室での経験は含まれず、ICUのように薬剤や全身管理を行う経験がNAに近いとのことであった。また、③に関しては、2025年までには全て博士課程(Doctorate in Nursing Practice)に移行する予定である。NAの業務内容に関して、具体的には術中の麻酔管理だけでなく、病歴に応じて心臓血管機能や心肺機能などの術前評価や、それをもとに麻酔に関するプランニングも行うとのことであり、それに必要な検査のオーダーも行うこともできる。術中においては、AラインやCVの挿入などの医療的行為を行ったり、呼吸器管理や、患者の状態をモニタリングするなどの役割があり、術後も24時間は患者の観察を行っている。さらに、急性期のみへの対応だけでなく、慢性的な痛みを持つ患者も対象であり、硬膜外注射や関節注射などを施注することができる。また、NAは国家資格である

ため、CNM同様アメリカ全土で働くことができる。医師が少ない地域のペインクリニックで働くNAは単独でこのような医療行為を行うこともあるとのことであった。しかし、カリフォルニア州においてNAは麻薬の処方権限がないため医師に依頼しており、裁量権については州ごとに異なっている。

日本においてNAは認可されていないが、特定医療行為などが制度化され、看護師の業務範囲が拡大されるに伴って日本でも今後ニーズが生じる可能性もある。聖路加国際大学修士課程には周麻酔期看護学があり、麻酔科医と協働して麻酔の安全と質の向上を目指す周麻酔期看護師養成課程を開設しているが、これは特定看護師や上級実践看護師の養成ではない。宮坂ら<sup>6)</sup>によると、この過程における麻酔科医療の実習は現行の保健師助産師看護師法の中で、「医師一般の包括的指示の下で特定の医行為を看護師に抜げる」という範疇には属せないと判断し、「日本麻酔科学会認定の麻酔科指導医の直接的な指示」の下での診療補助業務を行うこととしている。また、麻酔科専門医の直接指示のもとでの実習であり「医師一般の包括的指示」によるものではないとしており、より専門性の高い医師の指示のもと安全で的確な麻酔医療の提供に努めている。吉田<sup>7)</sup>によると、現在は聖路加国際病院等にてこの周麻酔期看護師が働いており、術前の患者評価や術中の呼吸や循環状態のモニタリング等、また無痛分娩の際の硬膜外麻酔の管理の補助などを行っているとのことである。このように、日本の現場においても周麻酔期看護師は活動しているが、認知度も低く少数であり法的に定められたものではない。また、活動においても各病院レベルの取り組みであることから、今後の活動についてはさらなる検討が必要な段階であるといえる。

#### 5) Psychiatric/Mental Health Nurse (PMH)

PMHは高度実践精神科看護師と訳され、American Psychiatric Nurses Association (APNA)<sup>8)</sup>によると精神疾患の評価、診断、治療および評価や、必要な検査のオーダーや薬の処方を行うとされている。ここでいう精神疾患とは、うつ病や統合失調症などの疾患だけでなく、薬物中毒患者やレスビアンやゲイ、トランスジェンダーの集団で精神的な問題を抱えた患者等まで多岐にわたる。対象は幼児期から成人期まで幅広く、病院や地域精神保健センター、診療所などで働いており、個人で診療を行う場合もある。また、アメリカにはソーシャルワーカーや心理カウンセラーなど、

患者の精神、心理面のケアを行う職種は多数あるが、それらの職種との違いはより専門的な学位が伴っていることである。PMHにおいても修士課程では一般的な病理学と共に、脳と行動の相関関係、高度な精神薬理学、および精神療法技術を学ぶ。他にも教育や研究、マネジメントに関しても職務として携わるため、他の精神・心理面のケアを行う職種に比べ専門的で信頼性も高い。そのため、州ごとに細かな異なりはあるが、精神、心理面のケアを行う医療職種で薬剤の処方ができるのはPMHと精神科医のみである。

日本においてはCNSである精神看護専門看護師が制度化されており、日本看護協会<sup>9)</sup>によると2019年現在310名が登録されている。CNSとしての役割は1)で述べた内容であるが、専門科目としてクリティカル精神看護、リハビリテーション精神看護、薬物依存精神看護、リエゾン精神看護、メンタルヘルス看護が履修要件となっている<sup>10)</sup>。病院や診療所、介護施設等で専門的な精神看護を行うだけでなく、リアリティショック、バーンアウトなど看護師個々が悩みを抱え込まないよう相談窓口になることもある。他にもチームの中で相互に支え合うことができるよう、感情的な問題を取り扱うカンファレンス等、看護師に対しても心理的な介入を行うこともある。アメリカとは裁量権や対象者の問題は文化的背景もあるため少し異なるが、あらゆる場面で精神、心理的問題を抱えた対象は多数存在しており、より幅の広い対象に対して精神的な関わりを高度な教育のもと実施する点については類似しているといえる。

### 3. ま と め

UCLAでのAPRNについての講義や施設見学等をもとに、日本におけるAPNと比較、考察を行った。それらを通して感じたことは、日本における看護実践には更なる専門的な教育環境と実践、それが認められる制度の整備が必要ということである。アメリカにおいては、医師の不足や保険制度による高額な医療の社会背景があり、医療費削減と効率化に貢献するAPRNの活動の需要が増している部分がある。しかし、安易に不足した医療を補う役割を求めるのではなく、そこには高度な修士課程での教育に基づいた専門性のある実践が伴っている。そのため、患者の満足度も高くケアの質も向上したということが研究データで示されていることから、社会的に信頼性の高い職種となっていることが理解できる。

一方日本においては、少子高齢化に伴う医療の需要の増大、それによる医療費の財政圧迫などがあり、アメリカとは別の形ではあるが、看護職の専門性の発揮が求められている。しかし、アメリカに倣った高度な実践ができる看護師を育成する制度を採り入れていきつつあるものの、いまだに看護師は「傷病者若しくはよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助」の法律の下の実践に留まっている。その背景には法律の規制だけではなく、医療現場において専門職間のヒエラルキーや、看護の高度な専門性についての本質的理解が進んでいないという現実があるのではないかと考える。

今回のUCLAでの研修において、アメリカにおける看護師の専門性は、社会的なニーズだけではなく、確立された制度と、その責任に相応しい高度な教育と実践に基づいているものであることを実感した。日本においても、日々変化する複雑化している医療体制の中で、看護の専門性が発揮できるような体制の整備が望まれる。

### 謝 辞

本論文に際して様々なご指導を頂き、カリフォルニアでの滞在中にも大変お世話になりましたOsato Medical clinic, Adult/Gerontology Nurse Practitionerの實取直子様へ深く感謝いたします。また、大変貴重な機会を提供して下さった藍野大学と、多くの知識や示唆を与えて下さった西上あゆみ教授に心より感謝申し上げます。

### 参 考 文 献

- 1) 日本学術会議 健康・生活科学委員会 看護学分科会. 高度実践看護師制度の確立に向けて——グローバルスタンダードからの提言——. 2011 [引用: 2019年10月15日]. URL: <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t135-2.pdf>
- 2) National Association of Clinical Nurse Specialists. What is a CNS?. [引用: 2019年10月4日]. URL: <https://nacns.org/about-us/what-is-a-cns/>
- 3) 公益社団法人 日本看護協会. 専門看護師 (Certified Nurse Specialist) とは. [引用: 2019年10月4日]. URL: <https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>
- 4) 公益社団法人 日本看護協会. 2018年度NP教育課程修了者の活動成果に関するエビデンス構築 パイロット事業・報告. 2019 [引用: 2019年10月30日]. URL: [https://www.nurse.or.jp/nursing/np\\_system/pdf/report.pdf](https://www.nurse.or.jp/nursing/np_system/pdf/report.pdf)
- 5) 公益社団法人 日本看護協会. 看護職の役割拡大と

- 人材育成. [引用：2019年11月9日].  
URL：https://www.nurse.or.jp/nursing/np\_system/index.html
- 6) 宮坂勝之, 片山正夫. 聖路加看護大学が目指す周麻酔期看護師. 聖路加看護学会誌 2012; 16 (1) : 35-37
- 7) 吉田奏. 手術におけるチーム医療の推進と手術看護の役割拡大 周麻酔期看護師の活動の実際. 手術ナーシング 2017; 4 (4) : 6-12
- 8) American Psychiatric Nurses Association. Psychiatric-Mental Health Nurses. [引用：2019年11月10日]. URL：https://www.apna.org/m/pages.cfm?pageID=3292
- 9) 公益社団法人 日本看護協会. データで見る専門看護師 分野別都道府県別登録者数一覧. 2019 [引用：2019年11月10日]. URL：https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns#approvedpersons
- 10) 一般社団法人 日本看護系大学協議会. 2019年度版高度実践看護師教育課程基準 高度実践看護師教育課程審査要項. 2019 [引用：2019年11月12日]. URL：http://www.janpu.or.jp/download/pdf/cns.pdf